

名誉会員からのメッセージ

53年ぶりの老受験生

東北大学名誉教授

大谷正康



会報編集委員会より「名誉会員からのメッセージ」として、随想風記事の執筆を依頼された。編集委員の原稿集めの苦勞を考え、会報「ふえらむ」の寄贈を受けている引け目(?)もあり、承諾した。

ごく最近の経験を題材にとり、近況報告もかねて責(せ)めを果したい。

平成8年6月9日、文部省認定漢字能力検定試験2級を受験した。大学在学中、昭和18年10月、旧海軍技術学生を受験して以来、実に53年ぶりの受験である。長い歳月が経ち、73才となった老受験生には久しぶりの緊張の一時であった。

町内会の高齢者間で回覧している「100歳万歳」のなかに、73才になった男性が2級漢字能力検定試験に合格した喜びの記事を見たのが受験の動機である。

丸善で願書をもらい、日本漢字能力検定協会に出願したのは3月の終りであった。私も前述の男性と同年で、一念発起、まず、2級を受験することにした。

第1回の受験日までに約3ヶ月の期間がある。以来、2級能力検定問題集、孫から送ってもらった「高校生の常用漢字」などを相手に、勉強を始めた。漢和辞典、用字苑および拡大鏡が常備品である。

ご承知の方もいると思うが、ここで検定試験の概略を説明しよう。

全国的規模では(財)日本漢字能力検定協会の実施する「日本漢字能力検定試験」と、もう一つは東京漢字検定協会の「漢字検定試験」の二つが代表的なものである。前者は7級～2級、準1級、1級の8つの級がある。1級が最高で、合格者は俗にいう漢字博士(はくし)である。試験実施は毎年3回、定期的に行われ、2月、6月および10月の日曜日に協会が定める各都道府県の会場で実施する。

各級とも200点満点、合格基準は1～3級は80%(160点)、4～7級は70%(140点)が目安となる。

検定料は級により異なるが、2級は4,000円、1級は6,000円である。

なお、2級以上は受験票に顔写真の貼付が要求される。

試験では生半可な漢字の覚えかたでは通用しない。拡大鏡を使って正確さを確かめたことは数限りない。解答は楷書体

で、はっきり正確に書かなければならない。専門の門には口がない。巳(み)はふさぎ、己(おのれ、つちのと)みな開けよ。半ばふさげば巳(すでに、やむ、のみ)となる。爪(つめ)に「ツメ」なし、瓜(ウリ)に「ツメ」ありなど、よく云われるいいまわしも覚えた。

問題は(1)読み方 (2)送りがない (3)部首 (4)熟語 (5)対義語と類義語 (6)誤字訂正 (7)書き取りの範囲で200点満点である。

部首と部首名は辞書を引くとき不可欠であるが、なかなか難しい。テキストの模擬試験に挑戦するが、初めのうちは60%程度しか取れない。4月、5月と過ぎ、80%を越すようになった。

6月9日の第1回試験日を選択した。当日、試験場に行くと、受験生の大半は高校生と見られる若人で、年配者は数えるほどしかない。入室前も、入室後も、参考書に目を通してゐる。高校生が多いのは合格者の大学入試での優遇制度があるからだろう。平成8年6月受験者数は約29万人、平均年齢18.9才と報じられている。

本番5分前、係員から答案用紙記入の注意を受ける。この頃になっても、受験生数名が入室してくる。10:00試験開始。さて、これからと久しく経験しなかった緊張感が走る。問題数の割りに時間が短い気がするのは力不足か。

11:00終了。退出時解答用紙が各人に渡される。

結果は40～50日のち、本人に通知するとのことで、7月22日合格証書(図1参照)が届いた。

いま、1級、漢字博士を目標に「晴耕雨読」ならぬ、やや誇張すれば「晴読雨読」の毎日である。ちなみに、平成7年第3回上級合格者は1級 145名、準1級 372名で、(平成7年第3回受験者数約20万人程度と推定される。《図2参照》)かなりの難関である。

“サムエル・ウルマンの詩”ではないが、老いしつつも漢字博士を目指し、希望に満ちた青春時代を過ごしている。

現役会員はワープロでの研究報告作成に忙しいと思う。いまは、漢字を勉強する時間的余裕はないだろうが、正確な日本語を使うよう心掛けて欲しい。私自身、これまでいかに曖昧な覚えかたをしていたか、今回の経験を通してよく判った。

30年ほど前、的場先生が「これからの社名などは、読んですぐ判らないようなカタカナのものが会社として成長してゆくんだね」と話されていたことを思い出す。「ふえらむ」もすぐ判るタイトルではない。ごく最近、徳田先生（東北大）と話す機会があった。その折、「カタカナの時代は過ぎ、“ひらがな”がはやっていますよ。金属学会の「まてりあ」もその一つです。そのつぎは漢字に回帰するかも知れません」と話

してくれた。

現在の「鉄」という字は「金を失う」と書くが、再び「金の王なる哉」なる鐵に戻り、ますます発展して行くことを念願し、終わりとする。

参考までに、平成7年度2級および準1級の試験問題中、「四字熟語」の項を抜粋した。挑戦して下さい。

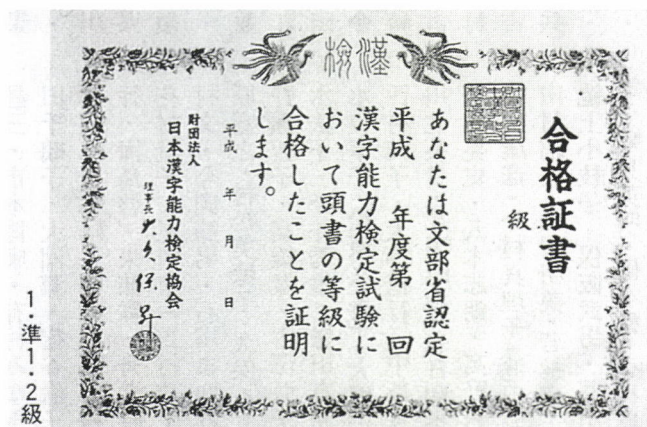


図1

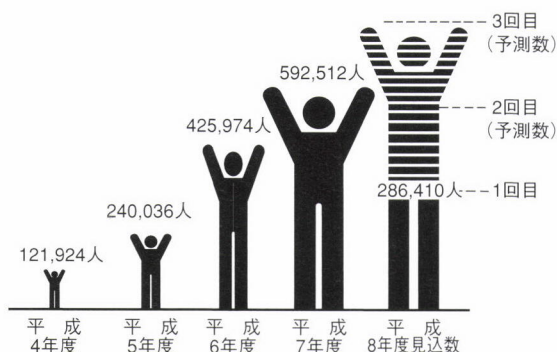


図2 志願者数（日本漢字能力検定協会調べ）

準 1 級

●次の（ ） に入ることは後の語群から
選び、漢字に直して四字熟語を完成せよ。
答案用紙に二字記入せよ。

5 ()	4 ()	3 ()	2 ()	1 ()
()	()	()	()	()
積玉	章草	名人	秀麗	凝議
10 ()	9 ()	8 ()	7 ()	6 ()
礪山	身体	拔本	一目	三者
()	()	()	()	()

きゆうしゆ・せきし・そくげん
たいか・たいきん・ていだん・はつぷ
びもく・りようぜん・ろぎよ

(答) 準1級

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
帶河	髮膚	塞源	瞭然	鼎談	堆金	魯魚	碩師	眉目	鳩首

2 級

●次の（ ） 内に入る適切な語を
から選んで、漢字に直して四字熟語を完成せよ。
答案用紙に二字記入せよ。

5 和洋 ()	4 愛別 ()	3 孤立 ()	2 是非 ()	1 当意 ()
()	()	()	()	()
10 ()	9 ()	8 ()	7 ()	6 ()
()	()	()	()	()
正大	打尽	乱麻	止水	果敢

いちもう・かいとう・きよくちよく
こうめい・せつちゆう・そくみよう
むえん・めいきよう・ゆうもう・りく

(答) 2級

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
公明	一網	快刀	明鏡	勇猛	折衷	離苦	無援	曲直	即妙

(1996年9月4日受付)